2025 年度・プロジェクト研究 募集要項

異文化間ビジネスコミュニケーション学
―多文化共生・多国籍職場コミュニケーション―

オコネル・ショーン
研究室　Q5003

❶ プロジェクト研究テーマの設定理由と内容

日本社会は少子高齢化が進み、着実に人口減少社会に至っており、労働力人口の減少など様々な問題に直面している。ビジネスにおいても、今後海外進出はもちろんのこと、日本国内においても人材のグローバル化が進むことが予想され、外資系のみならず、日系企業でも外国人と同じ職場で一緒に働く機会が増えるに違いない。その中で日本人社員にとっては、日本人同士だけではなく、外国人スタッフとの意思疎通が重要となってくるであろう。

本プロジェクト研究は、異文化間ビジネスコミュニケーション学を背景に、日本人と外国人からなる多文化共生・多国籍職場のコミュニケーションを基本テーマとする。学生の英語能力を活かし、言葉と親密な関係を持つ文化背景（ダイナミックな部分＝価値観、習慣、考え方、ものの見方、行動など）を探りながら、多文化共生・多国籍職場における組織のポリシー・メーキングを検証する。また、日本人が今後働き得る多文化共生的なビジネス社会において、どのようなポリシー（組織コミュニケーションルールや対策など）が必要になるか、異文化対応力の社員研修はどうであるべきか等もテーマとして活動する。

本プロジェクト研究では、日本語もしくは英語で実践的な調査方法を学び、卒論に向けた研究計画の立て方や、データの収集及び分析方法も学習する。基本知識をしっかり身に付けながら、効果的なプレゼンテーションの方法も学ぶことができる。

以下のような分野に対する事例研究やフィールドワーク等を通じて、グローバルビジネス社会で活躍できる人材を育成することを目的とする。

- Multinational Human Resource Policy
- Multicultural Workplace Communication Policy
- Foreign Affiliate Company Staff Relations (Japanese & Foreign Workers)
- Expatriate & Repatriate Training Policies (Japanese vs Western Styles)　　など

❷ プロジェクト研究の進め方

◆　3 年次（2025 年度）

具体的には、(1) 文献講読、(2) 研究方法、(3)共同及び個人研究を 3 つの柱として進めていく。

(1) 文献講読：３年次では、異文化間コミュニケーション・異文化理解の入門本や資料を熟読した上で、その解釈をディスカッション形式でまとめる。次に、異文化対応力（Cultural Intelligence）について知識を修得する。学生は、「High & Low Context」「Cultural Mindsets & Maps」「Communication Styles」「Multicultural Societies & Workplaces」トピックについて集中的に学び、要約を書いたり、討

論・発表したりするなど、知識を深める。

(2) 研究方法：社会調査やデータ収集に関する基礎的手法の概要を学習し、４年生の卒論作成に向けて学生が興味を持つテーマに対して最も適切な研究方法を考える。

(3) 共同及び個人研究：3 年次の第 Q3 及び Q4 では共通の研究テーマを決定し、グループあるいは個人による研究発表をもとに議論を深めていく。発表内容に関するディスカッションを中心に授業を進める。4 年次の Q1 開始時までに、自分の卒論テーマを決定し、同年の 12 月末までに卒論を完成させることを目標とする。

◆ **4 年次（2026 年度）**

４年次においても毎回卒論テーマについて、データ収集・分析・個人発表・ディスカッションなどを中心に授業を進める。なお、卒論の書き方についても指導する。

先輩の卒論テーマ例は以下の通り：

日本企業の海外進出：

◆ 「日本企業がインド進出に成功するために ～ 韓国企業を例にして～」
◆ 「グローバル展開を進める企業の現地化対策～マーケティング・マネジメントから考える～」
◆ “An Analysis of Suitability of Japanese Expatriates in America”
◆ 「日本企業におけるグローバル人材とは ～マネジメントの現状と課題～」
◆ 「日本企業の中国駐在における研修制度のあり方：中国の現地社員から求められているものは」

比較文化・多国籍職場：

◆ 「ディズニーの経営理念から学ぶ人間力の構築」
◆ 「外国人労働者と移民の受け入れについて」
◆ 「ダイバーシティ推進を掲げる日系企業の現状と課題」
◆ “Intercultural Care: Social Integration of Filipino EPA Caregivers in Japan”
◆ 「外国人人材の働きやすい環境づくり:カナダを例に」
◆ 「航空業界における空港サービスに対する期待と異文化理解の検証」
◆ 「在バリ島日本人駐在員が直面している問題～仕事文化における衝突を中心に～

異文化間コミュニケーション・異文化理解研修：

◆ 「日本における国際スポーツイベントの研修」
◆ 「多文化共生職場におけるミスコミュニケーション問題 ～タイにある日系企業を中心に～」
◆ 「日本の配慮の文化から考える在日ブラジル人とのコミュニケーション対策について」
◆ 「航空業界における空港サービスに対する期待と異文化理解の検証」

働き方改革・女性管理職：

◆ 「働き方改革～多様な働きかの問題点～」
◆ 「日本社会における女性管理職比率の向上」
◆ 「日本企業で女性が活躍できるために：日本現代社会の構造を通じて」
◆ 「日本とドイツのワーク・ライフ・バランス～改革の比較から見えてくる課題～」

教育とその他：

◆ “An analysis of Japanese as a universal language: A comparative analysis of how Nanzan University Thai international students evaluate Japanese at a universal language level”
◆ 「愛知県内における在留外国人と日本人の共存に向けて～豊田市保見団地を例に挙げて～」
◆ 「教育改善からみた日本の多文化共生職場の現状と今後」
◆ 「若年労働者のためのメンタルヘル ス対策 :EAP(Employee Assistance Program の導入 」
◆ 「観光先進国の実現に向けて地方創生事業の視点から」
◆ 「名古屋市における外国人の不就学児をなくすために必要な教育制度とは～日本語教育を中心として」

- 「一般就労している発達障害症状のある人に対する課題と支援」
- 「LGBT に対する日本の在り方について」
- 「LGBTQ+ inclusive workplace climate in Japan: How to create LGBTQ+-friendly workplaces for Japanese companies」

❸ プロジェクト研究のための前提科目及び関連科目

このプロジェクト研究を希望する場合には、公共コースの履修が望ましい。
必須ではないが、「Career Path English」、「比較社会論」、「文明論概論」、「異文化との出会い」、「思想・文化をめぐって」、「Intercultural Business Analysis」の他に、社会科学系科目、組織心理学系科目や国際科目群系科目等に積極的に履修することが望ましい。
このプロジェクト研究を希望する学生は、原則、3 年次の Q2 に開講される総合演習 B（担当：オコネル・ショーン）を履修すること（やむを得ない理由で履修が難しい場合には必ず相談すること）。

❹ プロジェクト研究開始までの準備

希望すれば担当教員から様々な情報提供などを行うが、基本的に「異文化理解」「多文化共生」とは何かを自分でも学習し、基本知識を得ることをすすめる。

❺ その他

本プロジェクト研究は次のような学生に適している：

- 積極性・チャレンジ精神を持っている学生
- 行動力がある学生
- 学生が主体となる授業（Guest Speaker など）計画ができる学生
- 他者の考え方・ものの見方について理解をしたいと思う学生
- 熱心に授業に参加し、自分の意見・解釈を自発的に述べる学生
- ゼミ合宿・授業外のイベントにも参加したい学生

❻ 選考方法

- 選考は、学部指定の「志望理由書」、「エッセイ」、「単位取得状況(GPAを含む)」を総合的にみて判断する。
- 「エッセイ」（900字程度）のテーマについては、プロジェクト・アワーにて伝える。